

仲間との協働に楽しさ

〈山口・周南市 宮崎孝明さん〉

東京からイターン就農

【山口】周南市の宮崎孝明さん(37) Ⅱ写真Ⅱは、東京からイターン就農して7年目。大阪や東京で育ったが、幼少期から母の田舎に帰省するたび田園風景に親しんできた。けがで前職を退職した後、農業大

学校で野菜づくりを学び、農家でイチゴ、ナス、ブロッコリーなどの栽培を学んだ。宮崎さんより1年早く就農した妻とは、就



農先の圃場が隣接していた縁で結婚した。認定農業者になった際に家族経営協定を締結して二人三

脚で経営を続けている。

現在は農地90アールでイチゴの高設栽培(16アール)のほか、夏のトウモロコシ、秋冬のブロッコリーを栽培し、JAに出荷している。就農当初は失敗ばかりだった。昨年の猛暑でイチゴ苗の半分以上が枯れたが、その割には安定したイチゴの生産ができたことから栽培技術に自信を持つようになった。

宮崎さんは「自分で決めて自分でやる農業には大きな魅力がある。日ごろから頼りになる仲間と草刈りや販売促進をやるのは楽しく、それが利益になるような共助のネットワークを作ってきた」と抱負を語る。

(周南市農業委員会)